

---

星

キキ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

星

### 【Nコード】

N7749V

### 【作者名】

キキ

### 【あらすじ】

以前、自分のブログに載せた作品です。

夏至祭りが近づく夜、ふたりは星空を眺めていた。

沙茄は星をつかまえることのできる巫女のひとり。

彼女は少年のために、祈りを込めて星をひとつ落とそうとする。

## （前書き）

宮沢賢治の「双子の星」という童話からインスピレーションを受けて書いた作品です。

「祈ってあげるから」と彼女は言った。

小さな鈴の音が響いた。沙茄さなの両手が星空に向かってずっと伸びた。手首に巻いた飾りが揺れていた。麻を編んだ腕輪には、花のように可憐な釣鐘型の鈴が連なっていた。彼女が自分で作った魔除けの装身具だ。それは松明の光を受けて、ゆらゆらと白く輝いていた。僕は幾分気が楽になって、僕のために祈ってくれている彼女の横顔に話しかけた。

「今度の夏至祭りには星がたくさん降るって本当？」

彼女は腕を下ろしてそうよ、と呟いた。

「世良せらは箒星ほうせいを見たことはある？」

僕は頷いた。

「見たよ。沙茄が去年の祭りで呼んだじゃないか。でも、僕はあんなに綺麗な星が悪さをするなんて、とても信じられないな」

村では毎年、鎮守神に豊作を感謝する祭りが行われる。沙茄は母親のあとを継いで、巫女として宴の前には社で舞を踊るのだ。

童話によると、空に浮かぶ水晶のお宮には双子の童子が暮らしている。箒星は双子の童子をだました悪い星だ。その罰として、箒星は王様に体をバラバラにされて黒い海に落とされた。星が降ると、村人は決まって「あいつがまた悪さしたんだな」と言うのである。

沙茄の髪が風を含んでふわりと揺れた。着物の袖を抑えながら、彼女は左手を正面に伸ばして宙をつかんだ。

「つかまえた」

鈴が鳴り、沙茄はこちらに向き直った。僕は彼女の手のうちのものが見たくて駆け寄った。

沙茄は少し微笑んで掌を開いた。

火の粉のような小さな光が震えていた。それは今にも消えてしまいそうだったが、息を吹きかけると、燐光を保とうとするかのよう

にひとときわ輝きを増した。

「双子の童子が、空のお宮で笛を吹いている間だけ、星の砂が降ってくるのよ」

## （後書き）

続きがあるような終わり方ですが、いまのところ続きを書く予定はないです。

また、機会があれば、沙茄と世良の物語の続きをつなげて行きたいと思います。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7749v/>

---

星

2011年10月9日13時26分発行